長野県男女共同参画推進県民大会

「長野県男女共同参画推進県民大会」が、令和元年 11 月 16 日（土）上伊那郡宮田村民会館で開催されました。大会は、長野県男女共同参画県民推進会議中村雅代会長の挨拶から始まり、県内で先駆的に女性が活躍している団体と個人が表彰され、その活動内容が発表されました。表彰された団体個人は「長沼こまち太鼓：長野市」「中塚美佳さん：プレイセンターにじのたね設立貢献 宮田村」「内山悠子さん：ボーイスカウトリーダー養成 松本市」「徳武洋子さん：女性消防隊 須坂市」です。

講演では、内閣府「男女共同参画会議重点方針専門調査会委員」「子ども子育て会議委員」等に就いている徳倉康之さんが「これからの時代の生きやすさを考えてみよう」という演題で、労働環境が整わず理不尽な事や困惑した事等自身の体験を話されました。

社会が急速に変化している中で「自分らしく」生きる事が重要で、そのためにはライフイベントである、就職・進学・結婚・妊娠・子育て・介護等、社会環境の変化の時に自分自身の生活を意識しキャリア（就業）をどうしていくか考える必要があると話されました。

「男女共同参画とはいっても、女性の就労・男性の育児等まだ必要な労働環境は整っていません。しかし、この環境を自分で変えていくには、自身の持っている能力やキャリアを分析し、できる事から取組む必要があります。また人生の主人公になる意識が大切である」と強調されました。

この分野を、どうしたらいいのか考えていく必要がありそうです。

男女共同参画　川柳寄稿

爺婆を仲良くさせる孫の声　　民子

漬物の重しで醸す夫婦愛　　みなと

穂高商業高等学校　男女共同参画講座

令和元年 11 月 27 日男女共同参画講座で、穂高商業高校３年生約 140 人と男女共同参画関係団体とで、16 グループを作り「私のライフスタイルどうしたい？」をテーマに穂高神社参集殿でワークショップを開催し、これからの人生について考えてみました。

生徒からは「健康で。ある程度の収入。楽しく過ごす。自分の家を建てる。結婚する。安心な暮らし。すてきな旅行。親孝行をする。」等の希望が大きな笑い声と共にでました。

希望に満ちた生徒たち、人生の４分の１を学業に費やし、４分の３を大人として社会で自分の人生を考えていかなければなりません。

そんな時、今回学習した「男女共同参画と働き方改革」を思い出しライフスタイルを考え、自分を見つめるチャンスになればと思います。

安曇野市男女共同参画　２０２０年３月　１１号

湧愛

YOU & I

編集・監修・発行
安曇野市男女共同参画推進会議
安曇野市男女共同参画コミュニケーター
安曇野市
事務局：安曇野市人権男女共同参画課
電 話：(0263) 71－2000㈹
FAX：(0263) 71－5155

～　多文化共生 事業所を訪ねて　～

新規就農者支援と、外国人従業員の雇用と育成を推し進めている「農業生産法人（有）安曇野ファミリー農産」へ、昨年11月初旬りんごの収穫期で忙しい時でしたが、編集委員が訪問しました。

社長の中村隆宜さんは、東京農業大学３年を終え休学し、アメリカ オレゴン州にて１年間、日系二世の農場において農業研修を経験。大規模果樹の経営はもちろん、世界各国からの労働者たちを育成する姿勢や、多様な文化交流の体験に、感銘を受けたそうです。

ミャンマーからの研修生と
中村さん（右から２番目）

帰国後、家業を継ぐ事に。安曇野一帯では、工場の進出を背景に、農業従事者の後継者不足や高齢化が進んでおり、守れなくなったりんご園を借り受け規模を拡大し、現在、長野県下でも大きな果樹園となっています。

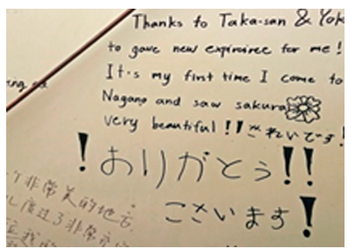
りんご産地を守るには、借園地の拡大だけでは限度があるため、独立意欲がある人達を迎え、就農里親制度を平成５年から活用し、後継者育成の取組もしているそうです。その成果もあり、新規就農者は10数名になりました。新規就農者には「こんな立派な仕事や学歴を投げ捨てて大丈夫？」と思う人達が多い事に驚いたと同時に責任も感じたそうです。

独立して借園地で果樹経営をしている仲間は6名です。この仲間とも連携し規模拡大、りんごに付加価値の上がる取り組みも出来るようになったといいます。女性の意欲的な研修生も多く、「りんごをとるか結婚をとるか」悩むケースもありましたが、りんご農家に嫁ぎ幸せなファミリーも２組誕生したとのこと。

海外からは、ミャンマーの研修生も来ています。屈託がなく明るく素直な好青年達です。日本での研修では多文化の交流も積極的に行っているそうです。例えば、地域のお祭りや行事に参加し、地域住民との交流を大切にされています。彼らの姿は、自身のアメリカでの農業研修経験が根底にあります。３年という短い期間での研修後、自国に帰る研修生達。日本の文化が少しでもミャンマーの地に広がり、また安曇野にもミャンマーの文化が広がれば、ミャンマーにとっても日本にとっても豊かな地域になるのではないかと感じました。

また、新規就農者育成には、今後の農業従事者人口減少課題克服の一助になる可能性を感じました。

研修生からのメッセージ



～目　次～

１頁　◆多文化共生事業所を訪ねて
２頁　◆平和と人権のつどい
　　＆基調講演
３頁　◆言葉の学習
　　◆地域を照らす
４頁　◆県男女共同参画推進県民大会
　　◆男女共同参画川柳
　　◆つなぐ

「平和と人権のつどい」＆「基調講演」

令和元年 11 月 30 日(土)豊科公民館大ホールで「平和と人権のつどい」が開催されました。司会進行役は、南安曇農業高校ボランティア部。

オープニングセレモニーでは、穂高東中学校合唱部による、柔らかな歌声が会場に響きわたりました。開会のことばやあいさつの後、第 39 回全国中学生人権作文コンテスト松本地区入選者の表彰式が行われました。長野地方法務局松本支局・松本人権擁護委員協議会管内から 39 校（内安曇野市 7 校）2682 編（内安曇野市 330 編）の応募があり、安曇野市の受賞は、優良賞 3 名と佳作賞 7 名でした。

◇優　良　賞

「周りに合わせていませんか」穂高東中学校3学年　矢島　優奈さん
「本当の思い」穂高東中学校2学年　加藤　美月さん
「仲間との協力」豊科北中学校3学年　井嶋　ななみさん

代表して、加藤美月さんと井嶋ななみさんの 2 名の発表がありました。

続いて、令和元年 8 月 5 日・6 日に安曇野市の平和教育、人権教育の推進のため、市内中学校 7 校の生徒代表 28 名が、原爆ドーム・広島平和記念資料館見学や広島平和記念式典に参加した折の、広島平和記念式典参加体験文集進呈や記念品贈呈が行われました。

その後、式典参加中学生の体験文集より 2 名の発表がありました。

◇基　調　講　演

講　師　　宮本延春さん　　元高校教師で現在はエッセイスト
演　題　　『オール 1 の落ちこぼれ、教師になる』

講演内容は、想像も出来ないほど衝撃的でした。

1969 年愛知県に生まれ、養子で一人っ子。病弱で厳しい義父には褒められた事もなかったが、働き者で優しい義母には愛されて育ちました。親族との繋がりが一切無い境遇を背景に、自己肯定感を育む事が出来ないまま小学校や中学校時代を過ごしました。小学校の低学年からのいじめで勉強嫌いになり、中学ではオール 1 の成績といじめで引きこもりや自殺未遂も経験。16 歳で義母を亡くし、17 歳で義父の入院で一人生活。中学を卒業し建設関係の仕事に就きましたが、厳しい職場と人間関係。18 歳で義父を亡くし天涯孤独となり職場も退職。お金がなくタンポポや蟻を食べたり、雨水で洗濯や身体を洗ったりの生活でしたが、新たな職場の建築会社では、社長がいろいろ気にかけて世話をしてくれ、生活や心の状況が一変していきました。

23 歳でアインシュタインのビデオを見て物理学への興味が湧き、夜間定時制高校に進学、24 歳で名古屋大学に入り、大学院に進み母校の教師にもなりました。人間には評価欲求があります。自身の体験を通して、「事実は 1 つ、見方は 2 つあるが、自己肯定感を育てる評価が大切です。“ありがとう”のことばを使って○（まる）の評価を増やして下さい」とお話しいただきました。

基調講演後、三郷中学校合唱部の歌声が会場を包み、広島平和記念式典に参加した代表中学生 5 名での平和都市宣言の朗読がされ、平和の大切さを再認識し、閉会となりました。

言葉の学習5

「 ジェンダーバイアス 」という言葉をご存じですか。

「バイアス」を簡単に説明すると「偏見」「先入観」となります。血液型で性格を判断するのはまさにバイアスです。またバイアスとういう言葉には違う意味もあります。分野によって少し異なる使い方もします。例えば斜めにカットした生地もバイアスと言います。

ジェンダーバイアスとは、男性女性という性別によって偏見や偏った意識を持つこと。「男は仕事、女は家庭」と思うこともジェンダーバイアスの 1 つです。この偏見・先入観は、長年の生活の中で無意識のうちに身についている事も多く、本人は気づかずに差別をしてしまうこともあります。これは無意識のバイアスと言われます。

昨年、信州大学准教授 加藤善子さんを招き「トップを目指す女性はなぜ少ないか」という講演をお聞きしました。副題は「自分自身の差別的な考えを捨てる」でした。

生まれた時から性別により、遊ぶ道具が違ったりしていませんか？との話から、遊びにまつわる実験の話や、理系大学の男女の成績差などの話もあり、学力に男女の差はないが、生活の中で性別による役割分担意識がすり込まれている事が多いとの内容でした。あまりにも自然で疑問に思わない事や、長年の習慣などにより、私たちは未来を制限しているかもしれません。

男女共同参画社会の実現には、このジェンダーバイアスに気付く事が大切です。

地域を照らす

安曇野市三郷健康体操クラブ

三郷公民館講堂で行われている、安曇野市三郷健康体操クラブを訪れました。中から「1.2.3 ！」と元気の良い大きな声が聞こえてきます。ドアを開けると 50 人位の方が中田勝子さん（三郷小倉）のかけ声に合わせて笑顔で体を動かしています。時々ウィットの利いた言葉に皆さんの笑顔がはじけます。

肩甲骨を動かすために「上着を脱いだり、リュックを背負うように！」など具体的にイメージしやすい言葉で指導していました。体操の終わりに全員 1 つの輪になり、感謝の思いを込めて 3 回「ありがとう」をくり返します。

参加者からは「ゆるい体操だし、私にも出来る、皆さんに会えて楽しい、元気になれてうれしい」という声がきかれました。

中田さんは、平成初期に健康体操指導者となり、長年予防活動の一環として健康体操をすすめ、また運動習慣を生活の中に取り入れる事を実践されてきました。「今後もこの大切さを伝えていきたい」と話されていました。